



I. 計画の目的

本計画では、地域公共交通の現状・課題を明らかにし、本町にとって望ましい公共交通ネットワークの姿と目標を示すとともに、その実現のための施策体系及び行政・交通事業者・地域住民の役割を定めるものとします。

II. 本町の地域公共交通網の構築に係る基本方針

1. 計画の基本理念

誰もが安心して利用できる「将来まで続く公共交通ネットワーク」の実現
～まちなかと離半島部のまちづくりを支援～

2. 計画の基本方針

- 方針①：居住エリアとにぎわい拠点を結ぶ「地域内交通」の利便性を確保・向上する
- 方針②：にぎわい拠点内に複数の地域公共交通が乗り入れた「生活軸」を構築する
- 方針③：石巻市等の町外との移動を担う「広域都市間交通」を維持・活性化する
- 方針④：移動需要を集約化する「乗継拠点」の機能を強化する

3. 計画の区域

計画の区域は、女川町全域とします。



4. 計画の期間

計画の期間は、上位計画である女川町総合計画等と整合を図りつつ、「2019年度から2023年度まで」の5年間とします。

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降
女川町復興計画 (2011～2018年度)					
女川町総合計画 (2019～2028年度)					
女川町地域公共交通網形成計画 (2019～2023年度)					次期計画

Ⅲ. 地域公共交通の将来像

1. 拠点の設定

本町の目指すまちの将来像や土地利用の方向性との整合を図り、町内の交通結節点を役割に応じて「中心拠点」と「乗継拠点」に大分します。

位置付け	役割	対象
中心拠点	・地域内交通と広域都市間交通が接続し、各階層の路線間の乗り継ぎを行う場所	・ J R 女川駅
乗継拠点	・地域内交通や広域都市間交通が接続し、他の路線との乗り継ぎを行う場所	・ 離島航路ターミナル ・ J R 浦宿駅

2. 地域公共交通の位置づけ

まちなか再生計画等の位置づけを踏まえつつ、公共交通網の階層化を図り、地域公共交通の役割を設定します。

位置付け		役割	対象
広域都市間交通	鉄道	・町内と石巻市（特に、J R 石巻駅周辺）や仙台市を結ぶ広域的な交流・連携を促進するため、都市間の移動を担う交通	・ J R 石巻線、仙石東北ライン
	路線バス	・町内と石巻市（特に、国道 398 号沿線の施設等）を結ぶ広域的な交流・連携を促進するため、都市間の移動を担う交通	・ ミヤコーバス女川線
地域内交通	まちなか	・町内のまちなかでの移動を担う交通 ・乗継拠点で広域都市間交通に接続することで町域を跨ぐ移動を支える交通	・ ミヤコーバス女川線 ・ 町民バス
	小規模需要	・町内のまちなかから離れたエリアの小さい需要に対応した移動を担う交通 ・乗継拠点で広域都市間交通に接続することで町域を跨ぐ移動を支える交通	・ 町民バス ・ 離島航路
生活軸		・町民の日常生活における目的施設が立地し、居住エリアから乗り継ぎせずに、直接アクセスできる区間	・ J R 女川駅～役場～地域医療センター～まちなか商業施設

3. 地域公共交通網の将来イメージ

※計画最終年度（2023年度）を目標としています。

<基本的な考え方>

持続可能な地域公共交通網の形成に向けて、多種多様な地域公共交通を有効活用した一体的な地域公共交通ネットワークの構築を目指す。

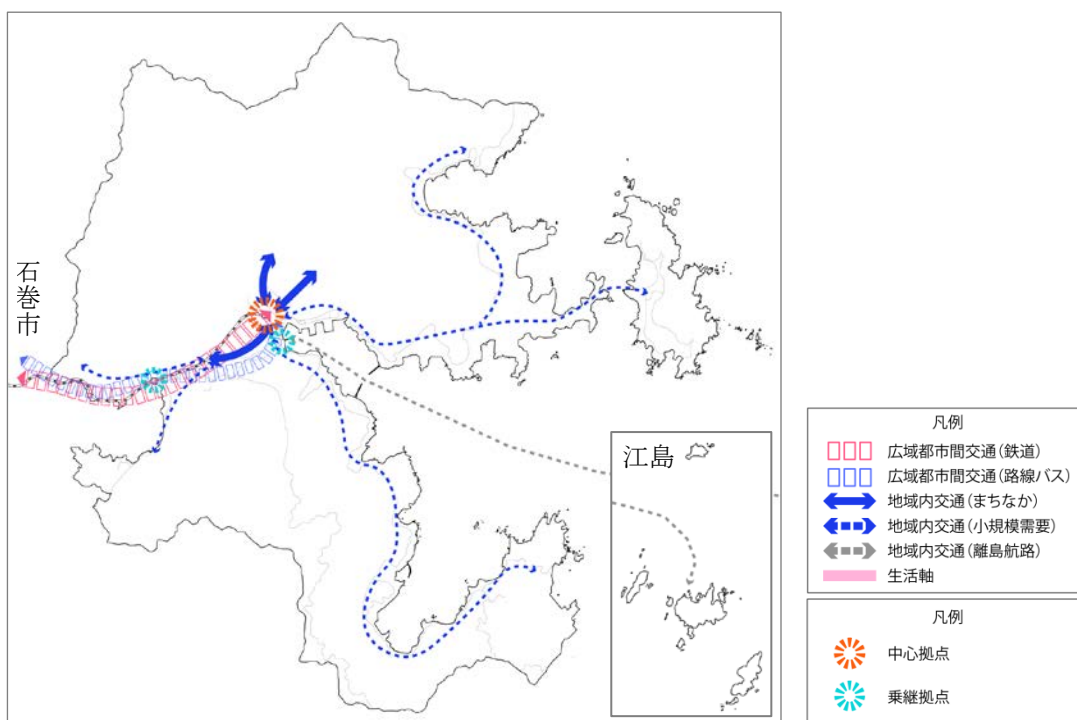
<地域公共交通網形成の方針>

方針①：居住エリアとにぎわい拠点を結ぶ「地域内交通」の利便性を確保・向上する

方針②：にぎわい拠点内に複数の地域公共交通が乗り入れた「生活軸」を構築する

方針③：石巻市等の町外との移動を担う「広域都市間交通」を維持・活性化する

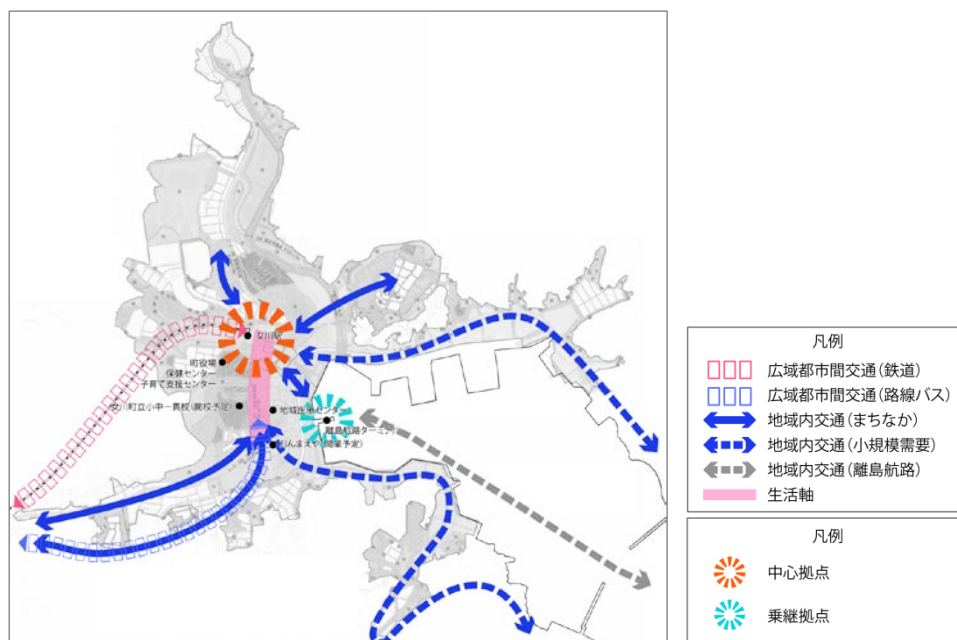
方針④：移動需要を集約化する「乗継拠点」の機能を強化する



【にぎわい拠点の拡大図（イメージ案）】

<生活軸形成の基本的な考え方>

- 住宅・団地から病院やまちなか商業施設等へのアクセス性を確保する
- JR女川駅と離島航路発着所間の接続改善・連絡強化を図る
- 生活利便施設が立地するまちなかの回遊性を確保する



IV. 計画の基本方針及び目標

基本方針に即しつつ、公共交通を取り巻く課題を解決するため、計画期間内における公共交通の目標を、以下の「目標1-1」～「目標3-3」の8つの目標に設定します。

基本方針1 将来のまちの姿を見据えた「便利」で「持続可能」な交通体系の構築

目標1-1 にぎわい拠点内に複数の路線が乗り入れた「生活軸」の形成を目指す

- ・生活利便施設が立地したJR女川駅～役場～地域医療センター～まちなか商業施設の区間を「生活軸」として位置付け、将来的に利便性を改善していきます。

目標1-2 拠点に位置付けるJR女川駅等での乗継利便性の強化を目指す

- ・ターミナル地点への乗り入れや他の路線との接続ダイヤの改善などにより、利用者の乗継負担を軽減します。
- ・公共交通の待ち時間が苦にならないような待合環境の改善・向上を目指します。

目標1-3 少ない需要に見合った利用しやすい新たな地域公共交通の導入を目指す

- ・需要に見合った地域公共交通に見直し、基準を設定することで、持続可能な公共交通網を構築します。
- ・地域の実態や利用特性を踏まえて、先進技術を活用した新たな交通システムの導入を検討します。

基本方針2 交通弱者である高齢者や子供等の「おでかけ」を支える交通体系の構築

目標2-1 町内の移動を支える「地域内交通」の利便性の維持・確保を目指す

- ・町内主要施設を隈なく回り、住民の暮らしに寄り添った公共交通を維持・確保していきます。
- ・まちなかでは、自動車を運転しない方であっても生活に支障なく移動することができるように、高頻度で運行するサービス水準の高い公共交通を維持していきます。
- ・まちなかから離れていても、安心して住み続けられるように、日常生活で必要な交通サービスを確保していきます。

目標2-2 石巻市等との生活移動を支える「広域都市間交通」の維持・活性化を目指す

- ・住民の日常生活の中で欠かせない町内と石巻市等を結ぶ「広域都市間交通」については、将来的に維持していくとともに、路線の活性化を目指します。

基本方針3 新たな需要を創り出す「わかりやすく」「乗りたくなる」交通体系の構築

目標3-1 分かりやすい情報提供を目指す

- ・町内に存在する多種多様な地域公共交通を一体的な交通体系として利用できるようにそれぞれの運行情報を一元的に提供します。
- ・初めて本町に来る来訪者や訪日外国人観光客など、誰もが迷わずに利用できる利用環境を整備します。

目標3-2 にぎわい創出に資する公共交通サービスを目指す

- ・町内外の交流促進・連携強化を支える公共交通網の構築を推進します。
- ・観光や福祉、教育、健康などの他分野との連携した公共交通施策の展開により、まちなかのにぎわいの創出や、住民のおでかけ支援などを促進します。

目標3-3 みんなで育てる公共交通を目指す

- ・交通事業者や行政だけでなく、地域（住民・学校・病院など）や企業（職場・商業施設など）等が連携し、継続的に公共交通の維持確保・利用促進などを検討していく場づくりを推進します。
- ・交通事業者（運行・運営）、利用者（運賃収入）、行政（国・県・町の補助など）によって支えることを基本としつつ、公共交通沿線の施設や関係者の協力を得ながら持続性を高めていく取り組みを検討します。

V. 目標を達成するための具体的施策

基本理念

誰もが安心して利用できる「将来まで続く公共交通ネットワーク」の実現
～まちなかと離半島部のまちづくりを支援～

基本方針・目標

基本方針1 将来のまちの姿を見据えた「便利」で「持続可能」な交通体系の構築

目標1-1 にぎわい拠点内に複数の路線が乗り入れた「生活軸」の形成を目指す

目標1-2 拠点に位置付けるJR女川駅等での乗継利便性の強化を目指す

目標1-3 少ない需要に見合った利用しやすい新たな地域公共交通の導入を目指す

基本方針2 交通弱者である高齢者や子供等の「おでかけ」を支える交通体系の構築

目標2-1 町内の移動を支える「地域内交通」の利便性の維持・確保を目指す

目標2-2 石巻市等との生活移動を支える「広域都市間交通」の維持・活性化を目指す

基本方針3 新たな需要を創り出す「わかりやすく」「乗りたくなる」交通体系の構築

目標3-1 分かりやすい情報提供を目指す

目標3-2 にぎわい創出に資する公共交通サービスを目指す

目標3-3 みんなで育てる公共交通を目指す

具体的施策

施策1：公共交通網の再編・見直し

- (1) 生活軸の形成
- (2) 地域内交通の再編・見直し
- (3) 広域都市間交通の維持・活性化
- (4) 拠点機能の向上

施策2：分かりやすい情報提供

- (1) 公共交通利用促進ツールの充実
- (2) 車両の行き先・方面表示の改善

施策3：利用しやすい環境づくり

- (1) 運賃体系の見直し
- (2) 先進技術の利活用の検討

施策4：利用促進等の取り組み

- (1) 多様な主体と連携した利用促進の展開

施策5：公共交通を考える場の組織づくり

- (1) みんなで育てる場づくり

VI. 数値目標

基本方針の達成状況を評価・検証する為、数値目標を設定します。

目標	指標	現状値	目標値
目標 1-1 にぎわい拠点内に複数の路線が乗り入れた「生活軸」の形成を目指す	生活軸の運行本数	28 本/日 (2018 年)	33 本/日 (2023 年) 【増加目標】
目標 1-2 拠点に位置付ける JR 女川駅等での乗継利便性の強化を目指す	町民バスの JR との接続割合	85.7% (2018 年)	90% (2023 年) 【増加目標】
目標 1-3 少ない需要に見合った利用しやすい新たな地域公共交通の導入を目指す	半島部における町民バスの利便性（町民アンケート）	五部浦地区：13.6% 北浦地区：19.0% (2018 年)	25.0% (2022 年) 【増加目標】
目標 2-1 町内の移動を支える「地域内交通」の利便性の維持・確保を目指す	町民一人当たりの町民バスの利用回数	2.1 回/人 (2018 年推計値)	2.7 回/人 (2022 年) 【増加目標】
目標 2-2 石巻市等との生活移動を支える「広域都市間交通」の維持・活性化を目指す	JR 及びミヤコーバスの利用者数	110,158 人/年 〔 JR : 81,030 人/年 ミヤコーバス : 29,128 人/年 (2017 年) 〕	110,000 人/年 (2022 年) 【現状維持】
目標 3-1 分かりやすい情報提供を目指す	路線図や時刻表の分かりやすさ（利用者アンケート）	24.7% (2017 年)	35.0% (2023 年) 【増加目標】
目標 3-2 にぎわい創出に資する公共交通サービスをを目指す	イベント等の開催実績（累計）	— (2018 年)	5 回 (2023 年まで) 【増加目標】
目標 3-3 みんなで育てる公共交通を目指す	住民参加の回数（累計）	— (2018 年)	3 回 (2023 年まで) 【増加目標】

VII. 計画目標の達成状況の評価

1. 実施主体と役割分担

本計画を推進するにあたって、「行政」「交通事業者」「住民」の三者が連携し、一体となって計画目標の達成に向けて施策に取り組むことが重要です。それぞれの役割を確認しながら持続可能な公共交通網の構築を目指します。

また、公共交通に関係する「様々な関係機関」との調整を図ることにより、持続性を高めるとともに、まちづくりに貢献する公共交通網を目指します。

主体	基本的な役割
行政	全体コーディネート（関係機関や周辺自治体との協議・調整）や、最低限の交通サービスを保障する。
交通事業者	公共交通等の運行を担い、安全性・快適性を確保する。
住民	積極的に公共交通を利用するとともに、公共交通を支えるための取組みを行う。
様々な関係機関	地域の一員として公共交通との調整・連携を図り、まちづくりに貢献する。

2. PDCAサイクルの構築

本計画の推進のみならず、継続的に公共交通網を改善していくための仕組みづくり及びその運用・マネジメント体制を構築します。計画で掲げた目標（Plan）を確実に達成するため、継続的に取り組む（Do）とともに、その取組結果を把握・評価（Check）、問題点があれば見直しを行い（Action）、新たな取組の計画を立てる（Plan）という、いわゆる PDCA サイクルを実行します。

なお、2019 年度以降には本計画に基づく地域公共交通再編実施計画を策定し、詳細な運行計画を取りまとめます。